

11月15日から26日にかけて開催される、国際的なろう者のためのオリンピックである「東京2025デフリンピック」。

今回の新春対談は、大会の運営に携わる運営委員会役員と大会への出場が期待されるアスリートをお招きし、日本初開催となるデフリンピックへの想いや取り組み、聴覚障がい当事者としての実体験から、大会を契機とした共生社会の実現に向けた展望などについてお話しいただきました。

図秘書広報課 ☎049-256-9535

倉野 直紀 氏

デフリンピック運営委員会 事務局長
母体となる（一財）全日本ろうあ連盟では事務局長を務める

開催100周年

日本初開催

東京2025
デフリンピック

【とき】

11月15日～26日

【場所】

東京都、静岡県(自転車競技)、
福島県(サッカー競技)

【種目】

21競技(陸上、水泳、卓球、
サッカーなど)

星野 光弘 市長

本市を含め647市区長（令和6年11月現在）
が加盟する「全国手話言語市区長会」では
会長などを経て現在は事務局長を務める

吉瀬 千咲 氏

埼玉県プラチナアスリート(強化指定選手)
日本デフ水泳協会 女子50メートル自由形
日本記録保持者

久松 三二 氏

デフリンピック運営委員会 委員長
母体となる（一財）全日本ろうあ連盟では
常任理事・事務局長を務める

共に社会を
-change society 変える
together-



TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS



デフリンピック100周年に 初開催地の日本の歴史が“変わる”

※ICSDロゴに関する一切の知的財産権は、国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) が保有し、日本では全日本ろうあ連盟が管理しています。

市長 新年明けましておめでとう
ございます。今年はいよいよ東京
2025デフリンピックが開催され
ます。久松さんは、デフリンピック
運営委員会の委員長を務められてい
ますが、デフリンピックが日本で開
催されることについて、期待されて
いることや今後の展望などをお聞か
せください。

久松 デフリンピック100周年の
記念の年に日本で開催できること
とてもうれしく思います。

近年、ろう者などを取り巻く環境
は、少しずつ良い方向へ変わってき
ていると感じていますが、大会の運
営にあたり情報アクセシビリティや
コミュニケーションのバリアなどの
課題を感じています。

東京2025デフリンピックに
は、こうした現状を変えていく原動
力があると考えています。

そして、社会におけるコミュニ
ケーションのバリアを取り払い、日
本の歴史の大きな転機になると期待
しています。

市長 倉野さんは、デフリンピック
運営委員会の事務局長を務められて
いますが、大会成功に向けた取り組
みなどをお聞かせください。

倉野 まず、東京2025デフリン
ピックの開催にあたり、デフスポー
ツの魅力を発信し、多くの皆さんと
のつながりを作っていきたいと考え
ています。

そのために、全国各地で大会啓発
イベントを開催しています。ここ富
士見市でも昨年10月に開催しまし
た。会場では、デフスポーツやデフ
アスリートの紹介などデフリンピッ
クのことはもちろん、手話言語や耳
がきこえないことへの理解促進も図
りました。特に子どもたちが手話言
語やデフリンピックを知るきっかけ
になっていると実感しています。

将来を担う子どもたちに「きこえ
ない」とはどういうことを理解し
てもらうことが大切であり、我々
が制作した映画『みんなのデフリン
ピック』を全国の小中学生に見ても
らい、さらに、きこえない子どもた

デフリンピックは「私たちはきこえな
いことを除けば何でもできる」という
ことを皆さんに理解してもらえれば
機会だと期待しています。

共に生きる社会に “変える”には

市長 吉瀬さんがアスリートとして
考えるデフスポーツの魅力をお聞か
せください。また、デフスポーツの
普及にはどのようなことが必要だと
お考えですか。

吉瀬 「きこえないことを除けば何
でもできる」ということを身をもっ
て表現できるところがデフスポーツ
の魅力だと思います。そしてデフス
ポーツを知ってもらうことが必要だ
と思います。デフリンピックを知ら
ない人がたくさんいる中で、開催ま
で残り1年を切りました。私たちデ
フアスリートも積極的にアピール
し、デフリンピックが開催されるこ
とを知ってもらい、盛り上げていき
たいです。そして、デフリンピック
が子どもたちの夢を描ききっかけに
なれば良いと考えています。

市長 本対談の会場である市民総合

ちとその家族には、仲間がいること
を知ってほしいです。

今後は、全国の小中学校と連携し、
子どもたちが「きこえない」とはどう
いうことを学ぶ機会を作りたいと
考えています。こうした活動を通じ
て、大会終了後には社会が変わって
いく、それがデフリンピックの役割
であり、日本開催の意義であると考
えています。

市長 吉瀬さんは、ブラジルで行わ
れた「2024世界デフユースゲーム
ズ」で50メートル自由形と100メー
トル自由形で準優勝に輝くなど日本
に限らず世界でも活躍されています。
デフリンピックが日本で開催される
ことについて、アスリートとしての
想いなどをお聞かせください。

吉瀬 デフリンピック出場を目指
して一生懸命努力しています。私
は、耳がきこえないからという理由
で、これまでいくつものスイミング
スクールから入会を断られてしまし
た。現在は大学の水泳部に所属してい
ますが、大学入学前に所属してい

体育館では、東京2025デフリン
ピックのバドミントン代表の選考会
も行われるなど、トップアスリート
が繰り広げる試合を観戦する機会を
市民の皆さんへ提供しています。ま
た、スポーツには言葉を超えて心が
通じ合える魅力があります。みんな
が一緒になってスポーツを楽しめる
環境をこれからも作っていきたく
思っています。

続いて、倉野さんにお聞きします。
本市では東京2020オリンピック
ク・パラリンピック競技大会の際に
は市民ボランティアの皆さんと一丸
となって取り組んできました。そし
て今大会でも、障がいの有無にかか
わらず全ての市民が一緒に取り組む
機会を作ることが目標です。

東京2025デフリンピックの大
会エンブレムは、デフリンピックを
通じて輪が繋がった先には、新
たな未来の花が咲いていくことが表
現されています。さまざまな方と関
わる中で、この輪をつなげるため
に必要なことをお聞かせください。

倉野 運営委員会には行政から派遣
された職員が富士見市職員を含め6
人いますが、そのうちの5人は手話
言語が全くできず、初めはとても心
配そうにしていました。そこで私が

たスイミングスクールでは「きこえ
ないことを除けば何でもできる」と
理解してくれるコーチや仲間におま
れ、水泳を続けることができました。
これも何度断られても諦めずに水泳
ができる環境を探してくれた母のお
かげです。練習や合宿への参加を通
じて、きこえる選手やきこえない選
手と多くの時間を共にする中で、コ
ミュニケーションがとれることがと
てもうれしいです。

伝えたのは、コミュニケーションと
は気持ちを通じさせることで、大切
なのは障がいの有無にかかわらず目
の前の人を尊重し、意見交換をして
理解を深めることです。そのため
は手話言語に限らず筆談やスマー
トフォンのアプリなどなんでもいいの
です。人間関係の構築にはコミュニ
ケーションの積み重ねが必要です。
今では派遣職員も手話言語の間違い
などを気にすることなく積極的にコ
ミュニケーションをとっています。
最近では、大会を応援してくれる団体



—コミュニケーションのバリアを取り払い、
現状を変える原動力がデフリンピックにはある—



—コミュニケーションとは
気持ちを通じさせること—



—私たちは
きこえないことを
除けば何でもできる—



手法や演出で表現された劇は、見る者全てを引き込み、手話を通じて表現者と観客が心を通じ合わせる瞬間に感動を覚えました。この感動を経験するには、まずは手話に挑戦することが必要です。加盟市区長の皆さんには、自分の名前や自治体名の手話から挑戦してもらい、少しずつでも一歩一歩前に進んでいければと考えています。その歩みによる輪が広がっていくタイミングにデフリンピックが重なるのではないかと考えています。

続いて、久松さんにお聞きします。東京2025デフリンピックの開催を踏まえ、共生社会の実現に向け、大会開催後の社会がどのように変わってほしいと考えているか、ご自身が担う役割とともにお聞かせください。

久松 私の活動の原点は中学生のときの出来事です。同級生が市内中学校の陸上大会に参加して優勝しました。しかし、ろう学校の生徒だからとの理由で県大会に出場することができませんでした。同級生は「きこえないからしょうがない」と泣いていました。当時のろう学校では、ろう者だから諦めなければならぬ、きこえる人に逆らっては駄目、我慢

しなさいと教わってきました。なぜ、私たちは諦め、我慢しなければならぬのかと考える日々でした。そして、きこえないのは自分の責任ではない、誰もが暮らしやすい社会に変わらなさいと幸せにはなれないということに気づきました。デフリンピックにはそうしたことを変える力があります。

社会との壁をなくし、挑戦する若者を増やしていくのが私の役割です。吉瀬さんのように頑張る人をサポートする環境を整えていくことも仕事のひとつです。東京2025デフリンピックを通して、みんなの考え方を变えることで変革を促し、新しい時代につなげていきたいです。

市長 よりよい社会になるようにこれまでの経験を生かすという考えがさまざまな活動の原動力となり、この東京2025デフリンピックはつくられていきます。本市もさまざまな課題を抱えています。障がいの有無にかかわらず全ての人が暮らしやすいまちをつくらせていくのが市長としての使命と考えてきましたが、この数年間、皆さんの活動に触れその想いをさらに強くしました。デフリンピックをより良いまちづくりの力にしていきたいです。



想いをつなげ、

共に社会を“変えていく”

市長 最後に、共生社会の実現に必要なことについてお聞きします。理想に近づくには、現状を変えることも必要です。障がいの有無にかかわらず、共に住みよい社会に変えるために今、一人ひとりができることについて、アドバイスやご意見などをお聞かせください。

久松 これまで私たちがろう者は、仲間内の世界にいることが多くありました。きこえない子どもの中には積極的に話しかけることや自分の想いを表現しきれない子もいます。吉瀬さんのように夢に挑戦している人がいることを多くのきこえない子どもたちに知ってほしいです。我慢しなくていい、諦めなくていい、夢に向かって、もっともっと積極的に挑戦していけばいいと背中を押してあげてほしい。誰もが挑戦できる環境を整えていくことで、ろう者の意識も変わり、積極的に社会の一員として活動していけるような未来が来ると信じています。

いに一歩踏み出して交流する・経験することが大事であると考えています。共生社会の実現のために最初になくさなければいけないのは、一人ひとりの固定観念です。きこえないことはコミュニケーションがとれないことではありません。社会はさまざまな人の集まりでできていて、意見や考えが異なることもありますが、対話を重ねることでより良い方向に変えていける場もあると信じています。

吉瀬 いくつものスイミングスクールに入会を断られたのは、耳がきこえないから事故があった時に危ないとの理由でした。きこえる人でも、何らかの病気により配慮が必要な人もいます。それでも私たちがろう者は、見た目では分からないから難しいと考えられています。しかし、身振りや手振り、紙に書くなどをしてもらえば、目で見て分かれます。私たちは分かり合えるのです。まずは、できないと決めつけるのではなく、どうしたらできるのか対話すること

新春対談 終わり



「手話は言語」

手話とは、手指や体の動き、表情を使って視覚的に表現する、音声言語とは異なる言語です。市では平成27年12月市議会で「富士見市手話言語条例」が可決・成立し、手話言語の普及活動に努めています。

